

2022年3月期 第3四半期決算説明会（電話会議）における質疑応答の概要  
(2022年2月1日(火)、東京)

Q. 加工食品の第3四半期累計の営業利益増減要因を教えてください。

A. 第3四半期累計では、増収効果と生産性改善でプラス16億円、一方マイナス要因は、原材料・仕入コストの増加-15億円、関係会社の業績影響額-10億円、減価償却費の増加-8億円、広告費の増加-2億円、海上運賃の増加など「その他」で-7億円である。

Q. 第4四半期の計画について、加工食品は前期並みの利益、低温物流はかなり利益が増える計画だが背景を教えてください。

A. 売上を第4四半期で伸ばしていくことがベースとなっている。加工食品では、売上は好調で伸びは継続しているので、コストアップを増収効果で吸収して前年同期間に近い水準を確保していく組立にしている。

低温物流は、前期は第4四半期に戦略的な費用が集中したが、今期は少し均して出ているので、前期比で見た場合は第4四半期の費用が減少する。

Q. 加工食品のタイの状況について10~12月の稼働状況は何%くらいだったのか。また、「関係会社の業績影響額」について、第2四半期時点の通期見通しから3億円上方修正してマイナス13億円になる見込とのことだが、来期はこのマイナスが全て戻ると考えて良いのか。

A. タイの稼働は当初計画より前倒しで進めておりやや上振れする見込となった。直近では8割近い稼働水準になっており今年3月には通常稼働を目指している。今期のマイナスが来期すべて戻るかどうかは言えないが改善していきたい。

Q. 加工食品の原材料コスト上昇と価格改定効果の来期へのインパクト、考え方を知りたい。

A. 今期の原材料などのコスト上昇影響は、第2四半期時点では2~30億円と説明した。ここが来期どういった数値になるか今はお答えできないが、考え方としては一部の原材料については一段高、下がるものは無いと見込んでいる。海上運賃の高騰や為替の円安などもあり、コストアップは継続するだろう。まず自助努力で対応するが吸収しきれない上げ幅となっているため、ご理解いただきながら価格改定を進めていく方針は変わらない。

Q. 価格改定後の販売動向はどうなっているのか。

A. 家庭用は、第3四半期単独では3%程度の増収となり、上期までの伸びからは鈍化した。これはタイ産の供給制約によりチキン加工品の販売が一時的に低下したことが主な

要因であり、価格改定の影響はそれほど大きくなかったとみている。

Q. 加工食品にとっては原材料も含め第3四半期がボトムで、ここからコストは上がってくるが、モメンタムは改善していくという基本的な考え方は合っているということか。

A. そのようにご理解いただけたらと思う。

Q. 低温物流の国内地域保管の売上高見通しを下方修正している背景と、適正料金収受の環境が今どうなっているか伺いたい。人手不足などコストアップに対して来期も価格転嫁できるのかどうか。

A. 畜産物など輸入品の搬入が計画より遅れており今回売上を少し下げたが、家庭用商材の取扱いは好調で業務用の荷動きも出てきている。適正料金収受については、外注費用や電力料、燃油価格などのコストアップが顕著であり、業務改善をさらに推し進めることで吸収に努めるが、難しい部分は顧客のご理解をいただきながらご負担をお願いしていく。

以上

※当文書は当日の質疑応答内容をすべて記録したものではなく、株式会社ニチレイが編集を加えております。